

ルラ大統領が独首相のウクライナ支援要請を拒絶

ポリティコ (POLITICO)

<https://www.politico.eu/article/ukraine-war-luiz-inacio-lula-da-silva-mercosur-olaf-scholz/>

2023年1月31日

ブラジル大統領は、緊迫した記者会見で、ウクライナ支援についてドイツ首相をはねつけた。

ドイツのシュルツ首相とブラジルのルラ大統領は、1月30日の深夜、ロシアのウクライナ侵攻の責任について言い争いとなり、ルラ大統領は、戦争にはキエフにも責任があるのではないかと示唆した。

シュルツ氏は、長らく遅滞していたEUとメルコスルとの通商・政治協力協定を進展させ、欧米のウクライナ支援のために南米諸国を結集させるため、30日遅くに首都ブラジリアへ到着した。

しかし、ウクライナに関しては、シュルツ氏は残酷な反撃を受けた。

共同記者会見でブラジル大統領が「今期中にEUとの貿易協定をまとめたい」と発言し、和やかにスタートした後、ウクライナ戦争にふれて、キエフに武器・弾薬を支援してほしいとのドイツの要請は拒否すると、険悪なムードに変わった。

ルラは記者団に対し、「1人が嫌がれば2人は戦えない」とのべ、ウクライナもロシアの侵攻に一役買ったとほのめかし、「ロシアとウクライナの戦争の理由をもっと明らかにする必要があると思う。NATOが原因なのか？領土問題が原因なのか？欧州加盟のためなのか。世界はそれについてほとんど情報を持っていない」とルラは付け加えた。

ロシアがウクライナの領土を侵犯したことは「古典的な間違い」(注)だとしながらも、双方とも交渉によって戦争を解決する意志を十分に示していないとも

主張した。「誰も1ミリも引き下がろうとしない」と述べた。

(訳出者注記：POLITICOの記事の原文では”a classic mistake“と紹介されているので、原文に忠実に「古典的な間違い」と訳したが、ブラジルの報道機関のポルトガル語の記事によると、ルラ大統領の使った言葉は”erro crasso”とされている。記者が聞き間違えたのかもしれないが、”crasso”とは「クラシックな(古典的)」ではなく、「粗末な、粗野な」である。したがって、正しくは「粗野な失敗」あるいは意識して「大失敗」である。)



左派系大統領の発言は、特に、昨年のルラ氏の当選を、右派のボルソナロ前大統領の国際的孤立からブラジルを引き出すチャンスだと囃し立てた欧米の指導者への侮辱と受け取られかねない。

シュルツ首相は、1月初旬のルラ大統領就任後、最初にブラジルを訪れた外国人指導者の一人であり、記者会見の冒頭で「ブラジルが世界の舞台に戻ってきたことを、我々は皆、喜んでいる」と述べた。

ルラ大統領のウクライナに関する発言の後、シュルツ首相は、ロシアのウクライナ侵攻は欧州だけの問題ではなく、「露骨な国際法違反」であり、「世界における協力の基盤、また平和の基盤」を損なうものであると述べた。

ルラ氏は、「正直いって今まで、戦争を平和に導く方法についてあまり聞いたことがない」とこれまでの調停努力を批判し、その代わりに、**中国、ブラジル、インド、インドネシア**といった**非同盟諸国による平和志向のクラブ**を設立することを提案した。これらの国はこれまで戦争に関する議論に関与してこなかったという。

また、ブラジルがウクライナにドイツ製のゲパルト防空戦車と弾薬を提供することで、ロシアのミサイルやドローンによる攻撃を防ぐことができるという可能性も否定した。「ブラジルは、ウクライナとロシアの戦争で使われるような軍需品を提供するつもりはない」と述べた。

シュルツ首相は、もし南米の近隣諸国が、現在プーチンがウクライナで行っているような帝国主義的な論理を採用していたら、ブラジルの過去はもっと平和ではなかったかもしれない、と反論した。

「もし、皆がロシアの大統領のように歴史書をざっと読んで、かつて国境があった場所を見るとしたら、どのような領土紛争が起きるだろうか。それを基準にしてしまったら、世界に平和は訪れない」と語った。

独首相、南米でウクライナ支持集めに失敗

ロイター

<https://www.reuters.com/world/brazils-lula-cold-shoulders-germanys-scholz-ukraine-support-2023-01-31/>

2023年1月31日

ドイツのシュルツ首相は今週、初の南米歴訪でロシアの侵攻に直面するウクライナへの支持を集めようとしたが、ブラジルのルラ大統領は、責任はロシアとウクライナの両方にある考えを繰り返したことから、失敗に終わった。

ショルツ氏は3日間の日程で3カ国（アルゼンチン、チリ、ブラジル）を訪問し、3国が昨年（2022年）の国連総会でロシアの侵攻を非難したことに感謝し、結束を図ろうとした。しかし、食糧やエネルギー価格の高騰など、戦争とロシアへの厳しい制裁の影響は特にこの地域を直撃し、欧米のアプローチに疑問を投げかけている。また、自国の過去から介入主義や制裁に懐疑的な意見も多い。

南米歴訪の最終日となった月曜日、ショルツは就任以来初めて、ルラを訪ねた。欧州は、極右のジャイル・ボルソナロ前大統領の下で冷え込んでいたブラジルとの関係を再構築しようとしている。

ブラジリアでの共同記者会見でショルツ氏は、ブラジルが世界の舞台に戻ってきたことを喜んでいると述べた。しかし、ブラジル左派の指導者がウクライナ戦争について意見を述べると、険しい表情を浮かべた。

ルラ大統領は記者団に「ロシアは他国の領土を侵犯するという古典的な（注）過ちを犯したと思うので、ロシアは間違っている。しかし、1国が戦わなければ、2国も戦わないというのが私の考えだ。平和を望まなければならない」と述べ、戦争の平和的終結を見出すことについて、どちらの側からもほとんど話を聞かなかったと付け加えた。

（訳出者注記：ここも、ポルトガル語の原文では「粗野な過ち」あるいは「大失敗」である。前記事の注記参照）

ルラ大統領はまた、ドイツから要請されたとされるドイツ製のゲパルト高射砲用の弾薬をウクライナに提供しないと述べた。

ブラジルはウクライナの平和を実現するために他国と協力する、自国はどちらの側にもつかないからだ、と述べた。

また、中国は和平交渉において重要な役割を担っているとし、3月に予定されている北京訪問で話し合うとした。

ウクライナに武器を持たせない

アルゼンチンやチリの指導者たちは、ロシアによる攻撃をより明確に非難したが、戦力支援に対するウクライナの希望は打ち消した。

「アルゼンチンやラテンアメリカは、ウクライナやその他の紛争地域に武器を送るつもりはない」と、アルゼンチンのフェルナンデス大統領はブエノスアイレスでショルツ大統領との共同記者会見で述べた。

チリのボリック大統領は、「一部のメディアやオピニオンメーカーは、他国の政治に関与するのは悪い決断だと考えるかもしれない」としながらも、侵攻を非難したことは間違っていないと擁護した。

武器に関してフェルナンデス大統領に同意しているかという質問には答えずに、チリは地雷除去など戦後のウクライナ再建を支援すると約束したと述べた。

ショルツ氏は、両国で、軍事独裁政権の犠牲者のための記念碑を訪れ、民主主義と自由のために戦う必要性を強調したと述べた。

ブエノスアイレスでは、「独裁政権の多くの犠牲者を追悼するこの場所で、私は、自由とより良い生活のために戦っているためにイランで殺されている若者のことを考えずにはられません」と述べ、ブラジルでは、独裁政権の犠牲者を追悼するこの場所で、彼は、民主主義と自由のために戦う必要性を強調した。

ブラジルでは、今月初めにボルソナロ支持者が政府庁舎を襲撃したことを受け、ルラ大統領とブラジル全体への全面的な連帯を表明した。

ドイツ政府関係者は、戦争の原因や対処法について中南米諸国の見解が分かれるのは理解できるとしながらも、ショルツ氏がアフリカやアジアでも行ってきたように、欧米の視点を伝え続けることの重要性を強調している。

(了)